



第4回コミュニティ研究会 「中越地震からのコミュニティ再生の取組」

公益社団法人中越防災安全推進機構 復興デザインセンター長
ながおか市民協働センター長
稲垣文彦



中越メモリアル回廊
The CHU-ETSU Earthquake Memorial Corridor

長岡震災アーカイブセンター きおくみらい
Nagaoka Earthquake Disaster Archive Center KiokuMirai

自己紹介

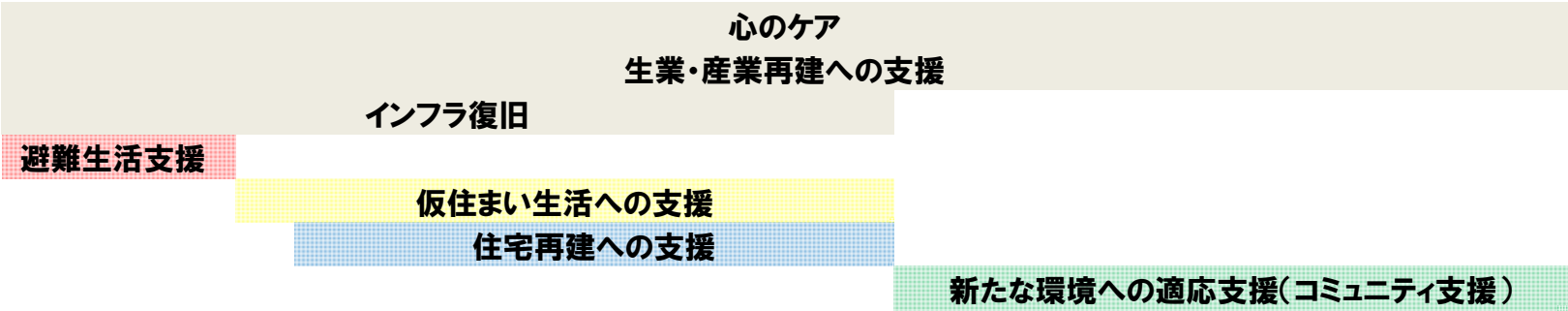
- 2004年10月 山古志村災害ボランティアセンターコーディネーター
2005年 1月 山古志村社会福祉協議会 生活支援相談員に就任
2005年 5月 中越復興市民会議を創設、事務局長に就任
2008年 4月 地域復興支援員を育成、バックアップする復興デザインセンターを
(社)中越防災安全推進機構内に創設、副センター長に就任
2009年 4月 同センター長に就任(現職)
2012年 4月 ながおか市民協働センター長に就任(兼務)
他に総務省地域力創造アドバイザー、みやぎ連携復興センターアドバイザー等

【新潟県外の主な活動】

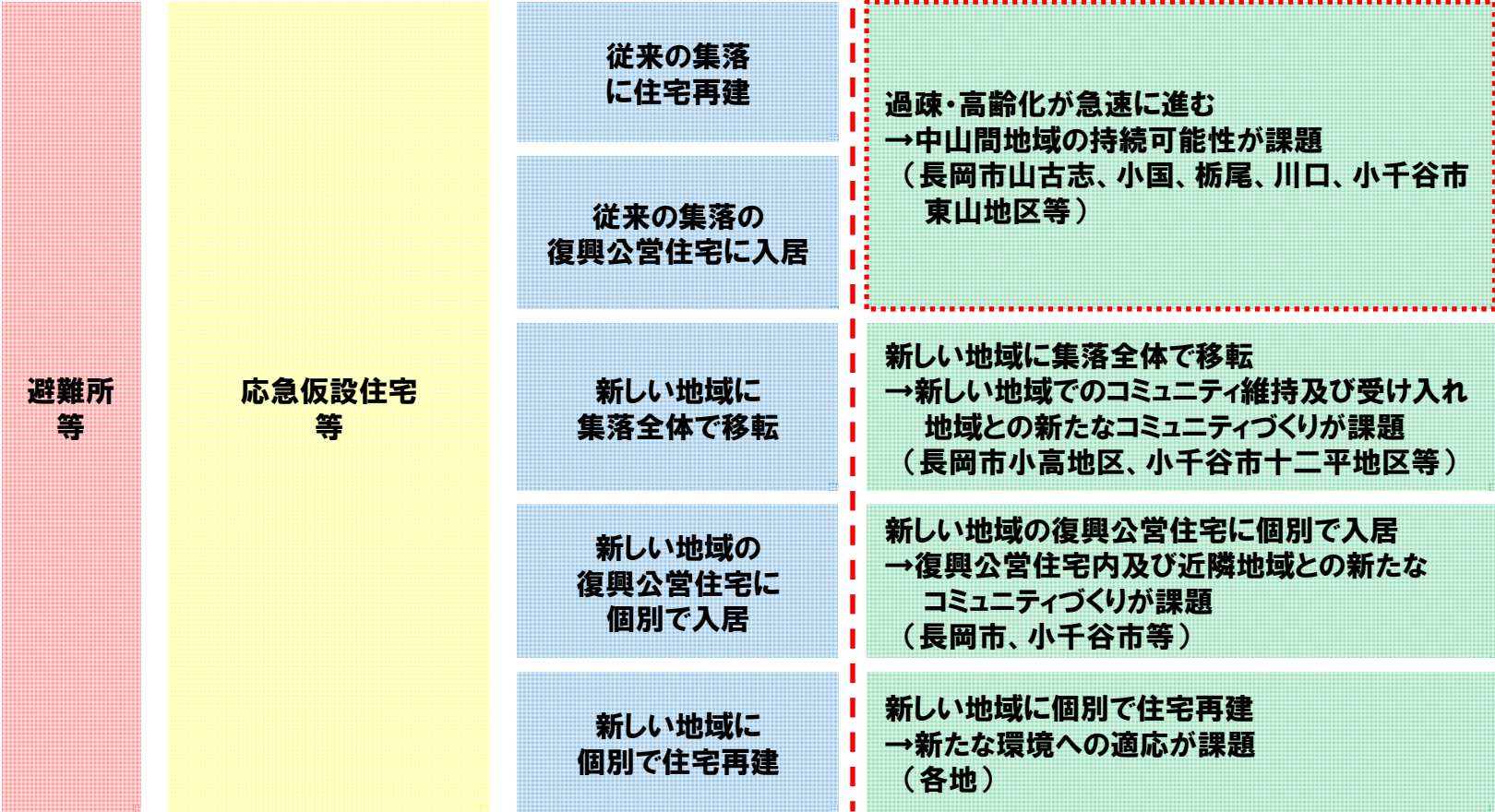
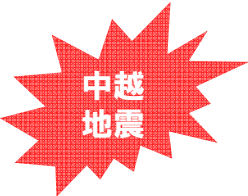
- 東日本大震災 ビッグパレット避難所運営支援(福島県)
復興支援員制度づくり(総務省)
復興支援員制度導入アドバイス(宮城県)
復興支援員及び受入自治体研修(岩手県、宮城県)
- 中山間地域の
地域づくり 地域おこし協力隊、集落支援員の各種研修プログラムづくり(総務省)
地域おこし協力隊、集落支援員の各種研修(総務省)
新・田舎で働き隊の研修プログラムづくり(農林水産省)

時間経過による課題の変化と支援の質の変化(中越地震)

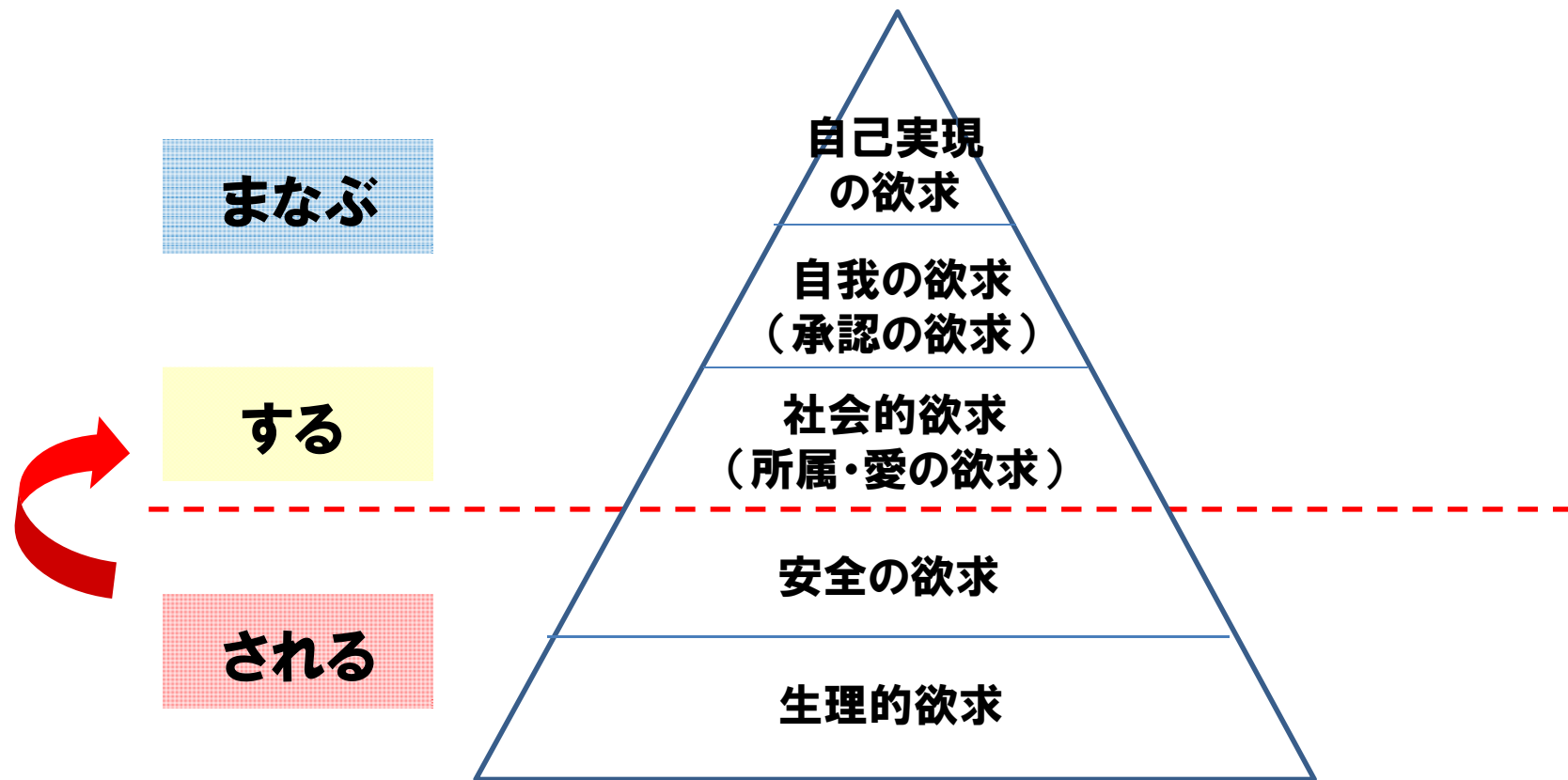
復興支援



住宅再建の違いによる環境
(コミュニティ)の変化のパターン

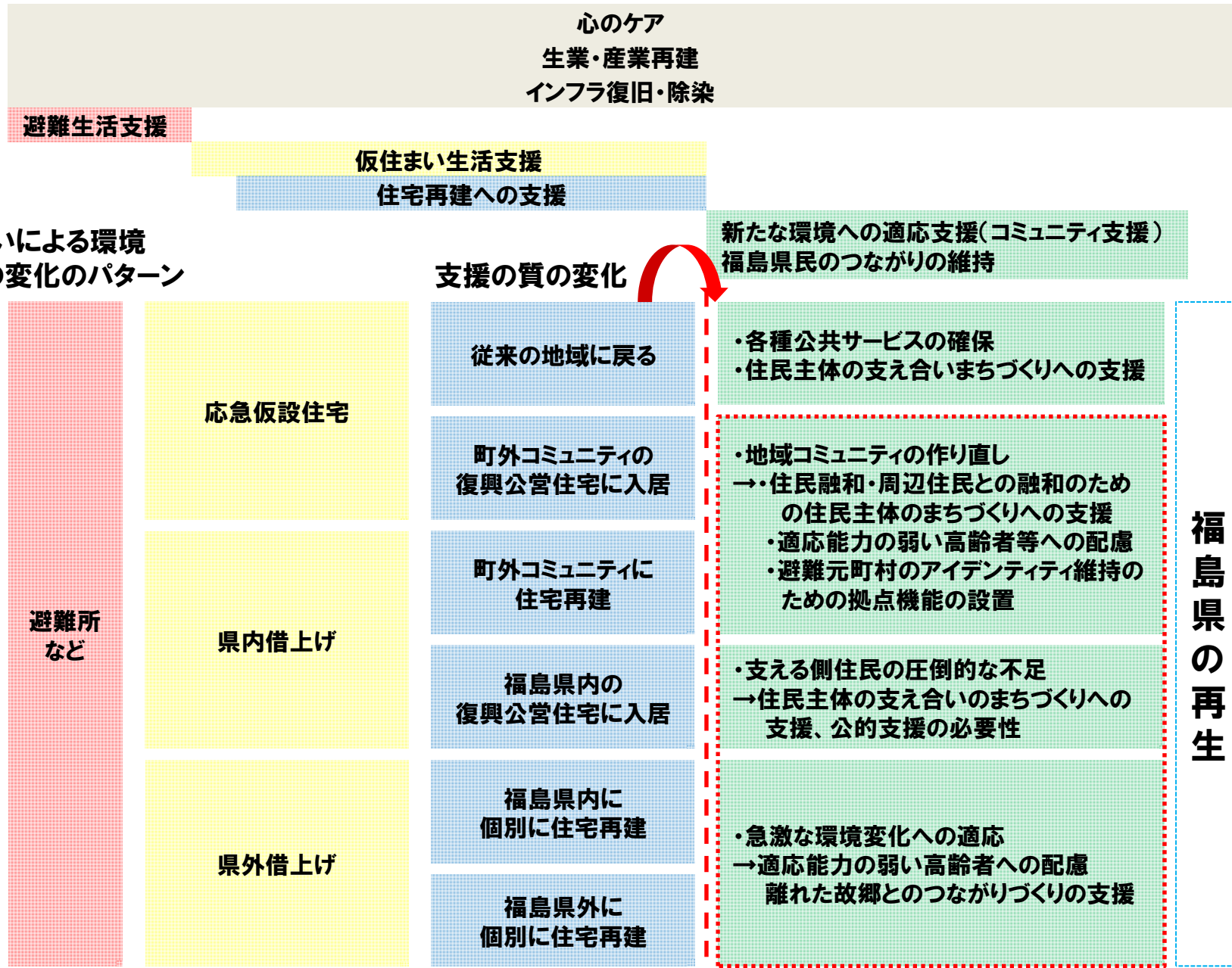


参考: 支援の質の変化



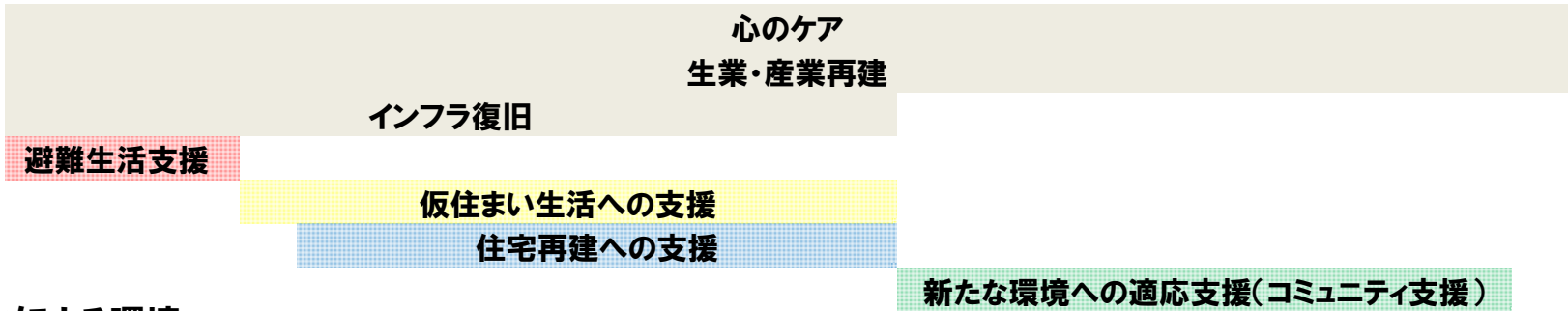
予想される時間経過による課題の変化と支援の質の変化(原発事故被災地)

復興支援

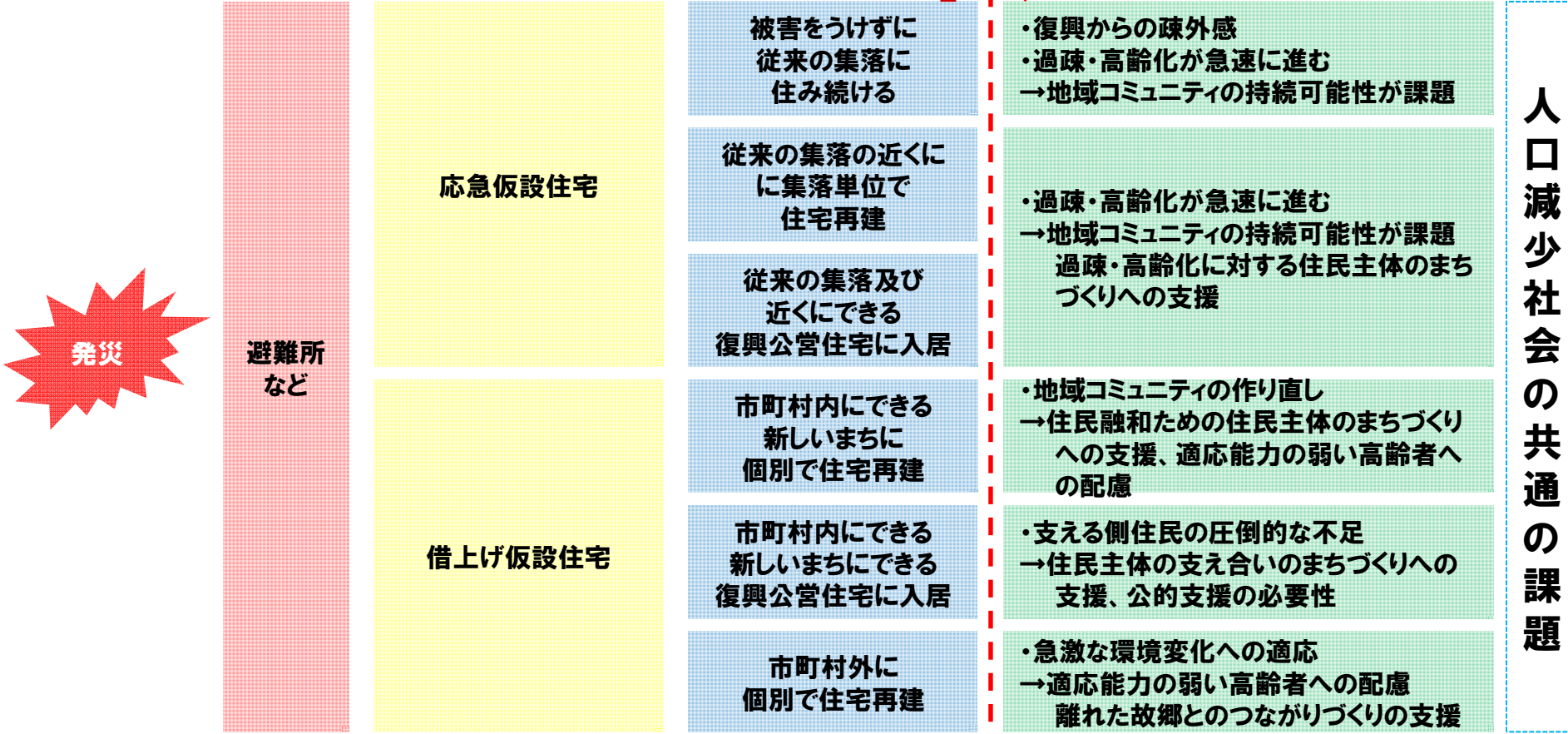


参考：予想される時間経過による課題と支援の質の変化(津波被災地)

復興支援



住宅再建の違いによる環境 (コミュニティ)の変化のパターン



小千谷市十二平集落（市街に移転）

元いた地にコミュニティ施設を建設



集落誌（集落の歴史、地震の経験）を作成

祈念碑・植樹



長岡市川口小高集落（市街に移転）

50年続いてきた運動会を復活



桜を移植

神社を移転

郷土芸能を守る



長岡市山古志木籠集落（集落の近くに移転）

交流施設・直売所を設置



水没家屋を残し、地震の教訓を



長岡市千歳復興公営住宅(NPO法人多世代交流館にな・ニーナ)

復興公営住宅近くに多世代交流館をオープン



住民による読み聞かせ



住民の子育てアドバイス



近隣住民とのお花見



地域復興交流会議



被災当事者による情報交換（課題や成功事例の共有）



ビッグパレットふくしま

避難者による避難所周辺の草刈り



サロン活動

自治会の設立

自主的な夏祭りの開催



あつまっかおおくま（柏崎市）



交流・情報交換

自主的な勉強会の開催



東松島市矢本仮設住宅

郷土料理イベント



される



自らする



時間経過による課題の変化と復興基金事業の変化

		心のケア 生業・産業再建	
避難所等	応急仮設住宅等	従来の集落 に住宅再建	過疎化・高齢化が急速に進む→中山間地域の持続可能性が課題 （長岡市山古志、小国、栃尾、川口、小千谷市東山地区等）
		従来の集落の復興 公営住宅に入居	
		新しい地域に 集落全体で移転	新しい地域に集落全体で移転→新しい地域でのコミュニティ維持及び受入地域 との新たなコミュニティづくりが課題（長岡市小高地区、小千谷市十二平地区等）
		新しい地域の 復興公営住宅に 個別で入居	新しい地域の復興公営住宅に個別で入居→復興公営住宅内及び近隣地域との 新たなコミュニティづくりが課題（長岡市、小千谷市など）
		新しい地域に 個別で住宅再建	新しい地域に個別で住宅再建→新たな環境への適応が課題（各地）

【復興基金による主な支援事業】()内:事業期間、2012年度までの累計金額(千円)

◆心のケア

こころのケア事業 (2005～2014、523,552)

◆生業・産業再建

手づくり田直し支援 (2005～2009、1,878,501)
農業用水水源確保支援 (2005～2009、1,909,916)

◆避難生活支援

◆仮住まい生活への支援

生活支援相談員設置 (2005～2009、338,530)

仮設デイサービスセンター設置 (2005～2006、10,000)

◆住宅再建への支援

被災者住宅復興資金利子補給 (2005～2013、5,603,880)

雪国住まいづくり支援 (2005～2009、2,772,825)

親族等住宅同居支援 (2005～2013、38,705)

緊急不動産活用型住宅再建資金融資 (2006～2008、83,901)

◆新たな環境への適応支援(コミュニティ支援)

地域コミュニティ施設等再建支援 (2006～2009、7,120,503)

中山間地域再生総合支援 (2007～2011、3,708,357)

地域コミュニティ再建 (2005～2011、1,597,416)

地域復興デザイン策定支援 (2007～2011、439,472)

地域復興デザイン先導事業支援 (2007～2012、482,473)

地域復興支援員設置支援 (2007～2014、1,168,534)

地域復興人材育成支援 (2008～2014、238,478)

メモリアル拠点整備・運営支援 (2010～2014、1,106,372)

地域資源活用連携支援 (2012～2014、0)

地域経営実践支援 (2012～2014、1,483)

支援の質の変化

2004.10.23

過疎化・高齢化が急速に進んだ中山間地域に対する復興支援プロセス

中越
大震災

復興ビジョン
二つの記録

急激な
過疎・高齢
化の進行

コミュニティの
再生プロセス

新潟県中越大震災復興計画(ローリングプラン)

【第1次】復旧段階(滑走・離陸期)
「創造的復旧」

【第2次】再生段階(上昇期)
「活力に満ちた新たな持続可能性
の獲得」

【第3次】発展段階(快調飛行期)
「震災復興を超えた新しい日常の創出」

【個人の生活再建
プロセス】

【コミュニティの
再生プロセス】

住民の復興意識の醸成
「縮小均衡」状態の打開

集落の将来ビジョンづくりと実践
地域単位の連携意識の醸成

地域の将来ビジョンづくりと実践
地域経営の仕組みづくり

住宅
再建

農地
復旧

集落
施設
再建

依存的
閉塞的
な集落

足し算
の支援

主体的
開放的
な集落

掛け算
の支援

集落維持・活性化
・集落連携
・都市交流
・集落ビジネスなど

乗数
の支援

地域経営
・持続的な住民主体の地域づくり
・地域ビジネスの生み出し
・公的サービスの補完など

新しい
日常

支援の質の変化

※地域・旧町村単位もしくは大字単位のエリア

【制度の隙間を補完】

【集落の回復力促進】

【集落単位の自立促進】

【地域単位の自立促進】

復興基金の主な事業

集落対
象事業

地域コミュニティ施設等再建支援
地域コミュニティ再建

地域復興デザイン策定支援
地域復興デザイン先導事業支援

地域対
象事業

メモリアル拠点整備施設・運営等支援

地域経営実践支援
地域資源活用連携支援

支援団体
対象事業

復興支援ネットワーク

復興支援ネットワーク

地域復興人材育成支援

地域復興支援員設置支援

中間支援組
織の変遷と
その活動

【復興支援の模索】【モデル地区への支援】【他地域への波及】【広がりに対応した新たな支援策】【新たな日常の獲得に向けた模索】

集落支援の模索

集落再生支援チーム

地域復興交流会議

地域復興支援員研修会

地域復興デザイン策定発表会

メモリアル拠点整備・運営支援

地域経営実践支援・地域資源活用連携支援

外部人材の活用・定住促進(インターン・起業)

復興プロセス研究会

復興検証・新潟モデルの確立と波及

中越復興市民会議

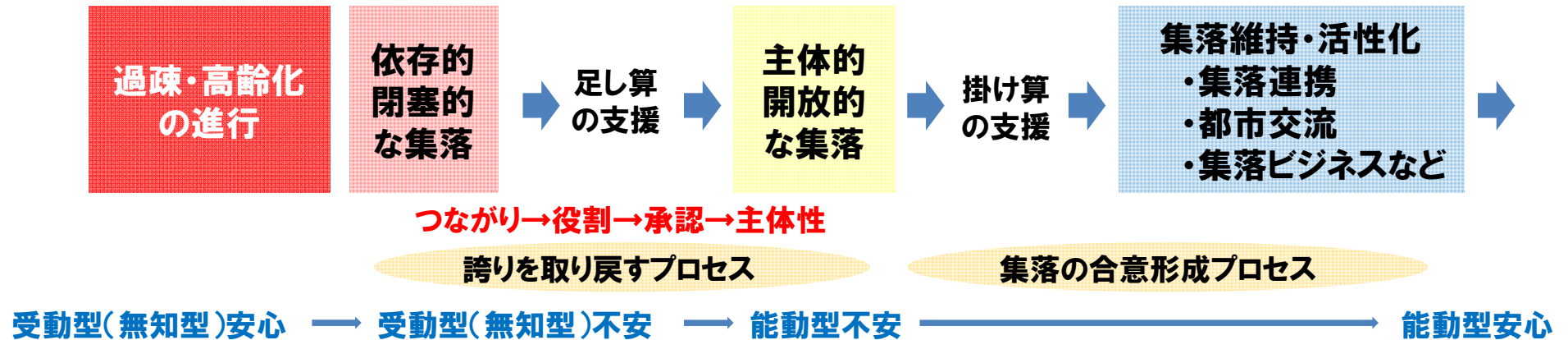
復興デザインセンター

長岡震災アーカイブセンターきおくみらい等
ながおか市民協働センター

人的支援の
有効性
バックアップ組織
の必要性

地域づくりの足し算と掛け算の法則

【縮小均衡状態の打開】 【集落の将来ビジョンづくりと実践】



1. 足し算の支援

(閉鎖的、依存的)→(つながり→役割→承認)→(開放的・主体的)

①外部とのつながり、②小さな成功体験の積み重ね、③共通体験

(地域の宝さがし、住民聞き取り、マップづくり、郷土料理づくり、郷土誌づくり、イベント等)

2. 価値観の変化

地域の将来を本音で語れる環境ができる。

→住民自らの言葉で作った腑に落ちるわかりやすい地域づくりのコンセプト

3. 掛け算の支援

住民が描いた夢を現実にする

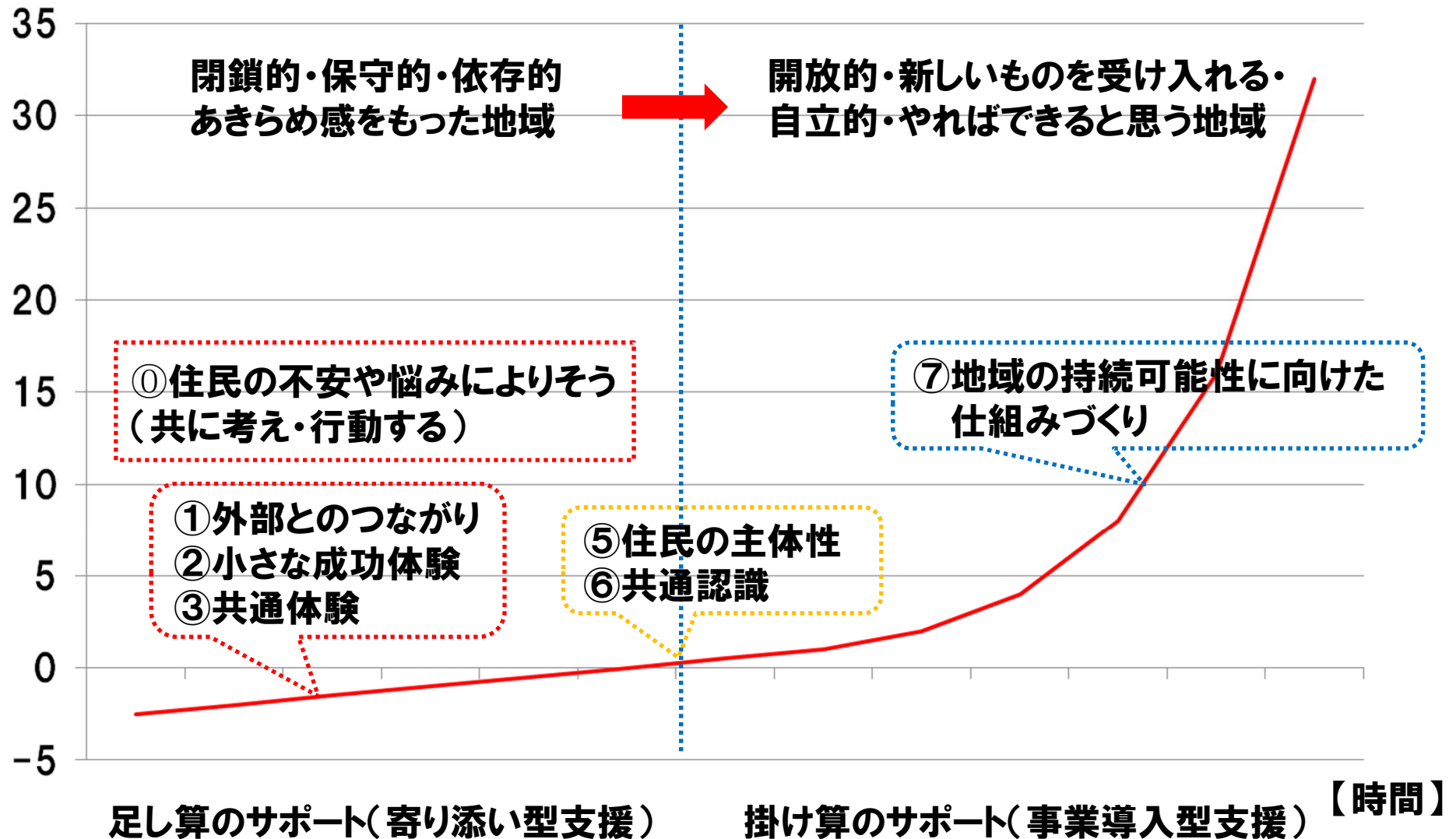
専門的な支援(先進事例、枠にとらわれない、経営ノウハウ等)

※閉鎖的、依存的な集落の力はマイナス値、マイナス値にいくら掛け算してもマイナス値が大きくなるだけ、まずは、地道な足し算を行い、集落の力をプラス値に！

足し算の申し子 【復興支援員・地域おこし協力隊・集落支援員】

【地域力】

【地域力創造モデル曲線】



コミュニティ再生に向けて(まとめ)

1. 住民主体のコミュニティ再生
2. 主体性を引き出す人的支援(エンパワメント)
 - ◆支援の両輪(セーフティーネットとエンパワメント)
 - ◆既に生まれてきている人材の有効活用
3. 人的支援を有効に生かすために
 - ◆プロセス
 - 【モデル(民間活用・補完関係)】→【成功事例】→【波及】の繰り返し
 - ◆バックアップ体制
 - ・課題の違う浜通りのコミュニティ再生、県中のコミュニティ再生、会津のコミュニティ再生を全てバックアップ
 - ・支援者(支援員、市町村職員、県職員等)へのバックアップ、円卓会議づくり・運営、制度・仕組づくり、他地域への波及、プロセス検証、ノウハウ蓄積、研究機能等
 - ◆課題解決、成功事例の共有(円卓会議:対等な立場で建設的な議論)
 - 【現場の課題や成功事例】→【市町村単位の円卓会議・県単位の円卓会議・国単位の円卓会議】→【現場へのフィードバック】の繰り返し
 - ◆柔軟に、タイムリーに使用できるお金(コミュニティ復活交付金・避難者支援事業等)
 - ◆それぞれの立場で課題を引き受ける覚悟